

ウイルス担当(平成16年度)

病原体定点調査(感染症発生動向調査事業)

(1) インフルエンザウイルス

平成16年11月から平成17年4月までにAH3型ウイルス54株、B型ウイルス73株合計127株のウイルスが分離または遺伝子が検出された。このうちAH3型ウイルスについては平成16年12月27日(第53週)の港南区定点検体から2株分離された。その後2月第9週をピークとして4月第17週まで分離された。他方、B型ウイルスは平成16年12月2日(第49週)の金沢区定点検体から1株分離された。その後1月第6週をピークとして4月第14週まで分離された。各ウイルスの抗原性状を調べたところ、AH3型ウイルスはワクチン株であるA/Wyoming/03/2004類似株であった。一方、B型ウイルスは山形系統のB/Johannesburg/5/99に類似したウイルスであった。

(2) アデノウイルス

一年を通じて20株分離された。4月から9月にかけて小児科定点より搬入された咽頭結膜熱患者由来の9検体のうち4検体からアデノウイルスが分離された(1型、3型各2株)。眼科定点由来の検体からは37型が3株分離された。

(3) エンテロウイルス群(ポリオ、コクサッキーA・B群、エコー、エンテロウイルス71)

夏季を中心に、11種32株が分離された。ポリオウイルスの分離時期は秋のワクチン接種時期と一致していた。手足口病患者由来の6検体のうち1検体からコクサッキーウイルスB4型が分離され、また、PCR検査で3検体からエンテロウイルス遺伝子が検出された。ヘルパンギーナ患者由来の7検体からはウイルスは分離されなかったが、PCR検査で6検体からエンテロウイルス遺伝子が検出された。なお、全国的な傾向は、手足口病患者からはコクサッキーウイルスA16型、ヘルパンギーナ患者からはコクサッキーウイルスA4型が優勢に検出された。

(4) ライノウイルス

春季から秋季にかけて、上・下気道炎の患者から30株検出された。

(5) RSウイルス

冬季の小児のかぜの主要な病因ウイルスの一つとしてよく知られており、冬季を中心に36株分離された。検出のピークは12月であったが、春季から秋季にかけても散発的に分離された。

ウイルス性食中毒等の検査(平成16年度)

非細菌性の有症苦情を含む食中毒等の事例(感染症の事例も含む)に対する検査は、昭和58年度より原因究明のための調査・研究として実施している。平成16年度の検査数は、123事例1,158件(患者663件、従業員402件、食品93件)で、毎年事例数、検査数ともに増加が認められるが、昨年度(99事例791件)と比較すると、検査数では約1.5倍の大幅な増加となった。従業員402件中の21件は、*Norovirus*陽性となった従業員について、陰性確認のために平成16年3月15日より実施している有料依頼検査である。

今年度の検査数の増加は、平成16年1月に広島県福山市の特別養護老人ホームで発生した

Norovirus を原因とする集団発生事例で入居者の国内初の死亡例がマスコミ報道されたことに関連し、横浜市内でも特別養護老人ホーム等で集団発生した事例についての検査依頼が増加したことが影響している。

全123事例中の78事例(63.4%)は*Norovirus* 陽性であった。今年度の*Norovirus* の遺伝子型に関しては、G1型が8事例、G2型は64事例、G1型とG2型の混在が6事例であった。昨年度と比較して、G2型が主流ではあることには変わりはないが、昨年度はG1型が1事例のみであったのに対して、今年度はG1型およびG1型とG2型の混在の事例が合計14事例と多いことが特徴的であった。また、それら14事例の内6事例は、4月1日から5月19日までに集中的に発生していた。また、G1型の初発事例の数日後に別のG1型の事例が発生するパターンが2ケース(計4事例)において認められ、同一の感染源が推定されるケースであり、今後遺伝子解析等の調査も必要である。

今年度の事例で特筆すべき点としては、昨年度に引き続き、*Norovirus* による施設内の集団発生が34事例(老人施設22事例、保育園・幼稚園7事例、学校関係2事例、その他3事例)と、昨年度の16事例と比較し、2倍以上の増加が認められた。この増加した要因としては、前述したマスコミ報道の影響及び国からの届出指導通知を反映したものと考えられるが、特に老人施設や保育園等での発生事例が、それぞれ6事例から26事例、3事例から7事例と昨年度に比べて大きく増加したことに反映されている。また、遺伝子型について着目してみると、老人施設内での発生は全てG2型の集団発生であったが、保育園、幼稚園、障害者施設での3事例については、横浜市内でも珍しいG1型による集団発生であった。また、これらの集団発生事例については、詳細に検討はできていないが、ほとんど全ての事例は食中毒ということではなく、施設内でのヒト-ヒト感染による感染症と考えられた。今回のマスコミ報道は、発生状況等の疫学調査を踏まえた総合的な判断の重要性と感染症としての*Norovirus* の認識を広く知らしめた点では貴重な機会であったと思われる。

また、平成11年度より市内市販品の生食用カキにおける*Norovirus* の汚染状況調査として、収去品の検査を実施している。本年度は本場、南部の両市場検査所でカキ中腸腺からのウイルスRNAの抽出、cDNAの合成までを行い、当所でリアルタイムPCR(ABI7700)による*Norovirus* 遺伝子の定量検査を実施した。その検査結果は、88検体(パック)中8検体が陽性であった。

肝炎ウイルス検査

(1) B型肝炎ウイルス

平成16年度における検査件数は2,814件で、その内訳を表12に示した。横浜市大附属病院(福浦)の医療従事者の定期検診ではHCV抗体検査も併せて1,078名の検査を実施した。

各区福祉保健センターからの依頼検査の総数は1,619件で、そのうち1件が妊婦であった。

自主的検査としては、横浜市立大学病院口腔外科を通じて、神奈川県内の歯科医師会の歯科医療従事者へのHBワクチン接種のための検査を117件行った。

(2) C型肝炎ウイルス

平成14年度に厚生労働省老健局老人保健課より「肝炎ウイルス検診等実施要領」が示され、本市でも平成14年度から各区福祉保健センターで実施されている基本健康診査においてC型及びB型肝炎ウイルス検査を導入している。方法は、節目検診と称して、満40、45、50、55、60歳の受診者を対象とし、5歳毎の年齢の時に1回限り検査を受診できるシステムで、検査を当所が担当している。本年度は5年事業の3年目で、検査総数は、5,267件であった。その内、C型肝炎ウイルス陽性

者は58名(1.1%)、B型肝炎ウイルス陽性者は44名(0.8%)であった。

なお、平成14年度より行っている各区保健福祉センターにおける一般外来での有料扱い(上記以外の対象者)の検査総数は、1,573件で、C型肝炎ウイルス陽性者は24名(1.5%)であった。

HIV検査

HIV無料匿名検査は、各福祉保健センターで実施している一般依頼検査、横浜AIDS市民活動センターでの夜間検査(18:00～19:30)、結核予防会中央相談所での土曜検査(14:00～18:00)の3つの受付窓口がある。それらから依頼されたHIVのスクリーニング検査は、昭和61年度から衛生研究所で検査を実施している。本年度の取扱件数は総数3,190件(一般依頼検査:1,483件、夜間検査:887件、土曜検査:820件)で、その内陽性検体は4件(一般依頼検査:3件、土曜検査:1件)であった。

また、市民病院からの依頼であるエイズ患者のフォローアップ検査は、抗HIV薬剤に対する耐性株の出現をみることを主眼にしており、患者への治療方針の補助になるものとして平成5年度から実施している。本年度の検査件数は、患者数53名による53件であり、その内新患は29名であった。